

令和5年 第5回 二海サーモンプロジェクト及び
土地収用法の適用に関する調査特別委員会会議録
令和5年11月24日 八雲町議会議員控室

○事 件

- (1) 上八雲種苗生産施設購入に伴う土地収用法の事業認定申請について
【サーモン推進室】
- (2) 小委員会の設置協議について
- (3) その他

○その他

○出席委員（12名）

委員長 赤 井 睦 美 君	副委員長 佐 藤 智 子 君
委員 横 田 喜世志 君	委員 大久保 建 一 君
委員 関 口 正 博 君	委員 官 本 雅 晴 君
委員 倉 地 清 子 君	委員 三 澤 公 雄 君
委員 牧 野 仁 君	委員 安 藤 辰 行 君
委員 能登谷 正 人 君	委員 黒 島 竹 満 君

○欠席委員（1名）

委員 斎 藤 實 君

○出席委員外議員（1名）

議 長 千 葉 隆 君

○出席事務局職員

事務局長 三 澤 聡 君	事務局次長 成 田 真 介 君
庶務係長 菊 地 恵梨花 君	

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） それでは引き続き、サーモン特別委員会を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。

【副町長・サーモン推進室職員入室】

◎ 事 件

○委員長（赤井睦美君） それでは早速、報告事項、よろしくお願いいたします。

○副町長（成田耕治君） 委員長、副町長。

○委員長（赤井睦美君） 副町長。

○副町長（成田耕治君） 先日の調査特別委員会を受けて、所有者と面談をした結果を報告させていただきたいと思います。

まず、生産施設の取得についてであります。町が取得予定していた同施設、土地については、土地収用法の事業認定申請はしないということを約束をさせていただきます。

また、町として同施設、同土地の取得をしないこととした旨を伝えてですね、所有者のほうから了承を得てございます。それに関してですね、まず土地所有者から、このことを申し上げたあとにですね、本人としてはこの種苗施設を取得することを前提として、新たな設備投資をしていた。だから、その経費の補償について、どうなんだというお話をいただいています。

このことに関しては、今回、議会の承認も得られなかったということも含めてですね、町としては、この新たに取得した施設設備に関しては、補償するものと考えてはいませんが、今後いろんなことも考慮して、今、顧問弁護士に相談しているところでもありますので、その結果を受けて、改めて所有者のほうに、今回の新たな設備投資の補償について、また面談を申し入れしたいと思いますので、その結果は、改めて議会のほうに報告させていただきたいと思っています。

それと、今回の施設、土地を取得しないと決めたということで、12月の第4回定例会においてですね、5千万の減額補正をさせていただきたいと考えているところですので、以上3点について報告させていただきたいと思います。

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

このことについて、質問、ご意見ありませんか。

○委員（大久保建一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保建一君） 今回、特別委員会が設置されて、いろいろ調査した結果、5千万って金額の決め方も不透明だったし、収用についても、なんかモヤモヤというか、全然相応しくなかったんじゃないかってことで、多分、今回取り下げてくれたと思うんですね。

役場として、この議会に上げるのに、どういう事業の考え方をしてるんですか。議会に上げたということは、やる気してたんですよね、これを。5千万の予算作って、どういう事業の組み立て方をしてるんですか。おかしくないですか。ここに町長いないから言っても仕方ないのかもしれないけど、副町長だって管理者でしょ。どういう事業の組み立て方してるのこれ。この事業だけなのこれ。こういう組み立て方をしているのは。すんごい不信感しかないですよ。役場に対して。行政の。もっと役場って、ちゃんとしてるものなのかなと思ったんだけど、思いませんか。多分、みんなも思ってると思う。不信感しかないです、正直。こういうことは一切なくしてほしい。お願いします。

○副町長（成田耕治君） 委員長、副町長。

○委員長（赤井睦美君） 副町長。

○副町長（成田耕治君） 今、大久保議員のほうから言われたように、町としては、これを議会に上程するという事で5千万の取得を上げました。それで、いろいろな経緯、経過は当然ありますが、これの施設を取得するにあたって、本体の熊石のほうの関係もあります、法人と色々な話しをした中で、バックアップ施設は必要ですよというお話しは、今後、事業を展開する中でありました。

それでその中の一つとして、どこの施設があるのかという、今現在、養殖をしている施設があるということで、湧き水があつたり冷泉があつたり、環境がある程度整っている施設をそのまま取得できたというような考えもあつたとは思っていますが、この案件に関しては、町長今までいろんな発言をしてきた中で、当然議会のほうにもお詫びをしないとしない案件、事案、言葉だとか、そういうのがありますので、改めて町長の口から発言できるような場を設けたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） 他にございませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 上八雲の施設に関しては、大久保委員がおっしゃるとおり、議会としても当然認めていたという部分では、議会としてもしっかりと反省しなければならないことでもありますので、ただ、僕が非常に残念なのは、僕にとってのこのサーモン養殖事業は、非常に八雲にとって大事な事業だと、これは今でも希望を持っている。

しかしながら、本当に先方の青森の業者さんとの関係性というのがどうなのかというのは、サーモン特別委員会でも明らかにしていかなければならないことだと思っております。先日、知内においての養殖事業の記事が載っていたのは、議員の皆さんは、見てらっしゃったと思います。

サーモンファクトリーの鈴木社長が対応しての言葉の中で、知内でも種苗生産施設があつたらいいってみたい記事が出ていましたよね。これ八雲の種苗生産施設のメリットそのものが、本当にこれが青森の業者さんが望んでいることなのか。本当に八雲とオカムラさんの信頼関係というのは、ちゃんとしているのか。交渉はちゃんとしているのか。そもそも、八雲の計画は、近隣町村への売却というのは、第

一にあるはずで、もしそんなものも出来上がっていないとすれば、このサーモン養殖事業は、ベラベラの事業にしかないんですよ。僕にとってはそこがすごく不安で、このバックアップ施設の重要性は認識しますが、毎度喋りますが。それ以前の問題なのかなっていう、すごく不安なんです。ここまでせっかく来たのに。当然担、当課だって一生懸命、いろんなことをPRしてきて、実は上層部の話し合いそのものがペラペラなのかなって。これ本当は町長がいたら、僕言いたいんですよ。それ凄く不信感を持っていたんです、もともと。南北海道サーモン協議会が、コロナで立ち消えになったみたいな、そいことを言ってたけれども。近隣との関係性プラス青森の業者との関係性、これが崩れたときには、サーモンなんてものは、続けることはできないですよ。計画性も何もあったもんじゃないですよ。だから、そんなのが見受けられるのが、非常に残念だなって。バックアップ施設なんてものは、そのあとに、これ議会も僕もものすごく責任を感じていますが、それ以前に事業そのものの計画性を含めて、これ副町長は申し上げづらいところがあるかもしれないけれども、これ僕らは、この事業そのものを信頼して良いのかどうかというところに、今ちょっと僕自身は考えが及んでいます。その点についてはどうでしょう。

○副町長（成田耕治君） 委員長、副町長。

○委員長（赤井睦美君） 副町長。

○副町長（成田耕治君） 先日、私も新聞を見て、びっくりしたことはびっくりしたんですけれども、今、知内で事業を展開しようと思っっているのは、八雲町だとか、この近隣でやっているような小規模のものではなくて、海面のほうに持って行って、今回、今、カキの桁を活用しながら、海面のほうに出て、一気に一つの枠の中で、それで5万匹くらいの大きな枠付でできる環境を調査しようということ今進めています。それが上手く状況ができれば、その養殖に関しては、どんどんどんどん大きな数字になってくるということもあって、その知内地域は一つの枠ですが、それをもっともっと拡大できるような環境であるのであれば、そこにふ化施設が必要なのかなっていうことは察するんですが、その話しについては、鈴木社長と話しをしていないので、改めて確認をさせてもらいたいと思いますが。この日本海の関係に関しても、今の養殖の仕方だと、なかなか今50万粒っていう、これから水利権の関係もあって、その50万粒が40とか35になる可能性もありますが、今、計画の中では、各この岩内からずっと上ノ国までやっていますが、今この漁港内とかでやるものについては、本当に50万粒っていうようなかたちにならないと思います。それで、今、検討しているのは、洋上風力の関係で、いま日本海側のほうに、上ノ国からせたなも含めて大きく展開をしています。それで洋上風力の基盤に、今言ったような、向こうはカキの桁ですが、洋上風力の基盤に大きな網を付けて、そうすると相当な海が荒れたとしても、外海で環境ができるとなると、本当にさっき言ったように5万尾だとかという大きな枠でどんどん展開できるということを検討しているところなので、今回の50万粒の計画がですね、課題なのかどうかっていうのは、今後のいろんな展開も含めて出てくるのかなということと、余剰になった幼魚に関しては、サーモンファームで最終的に引き取るという約束をされている。その部分については、話し合いはできているので、もう少しサーモンファームのほ

うと細かく話しをしていかなければならないんですが、法人化の関係が、やっぱり水利権の関係だとか全体の規模がまだはっきりしてないもんですから、なかなかいろんなところに踏み込んでいけるような話しにはなっていないというのが現状です。

皆さん、本当にそんなに50万粒まで拡大して施設を大きくしていくというのに不安はあるかもしれませんが、町としては、一応、いろんな構想も含めながら展開できたらと思っています。町長がいないので、私はこの辺で、今、意見として引き上げたいと思います。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 民間業者ならいざ知らず、この行政がやることであまりにも不確定なものに対して予算を投下する。こんなことはあり得ないです。まずはしっかりとした最終目標があって、あると思ったからこそ我々は認めてきたということがあるんです。そんな洋上風力の方なんて、これから雲がすくむような、実際、計画も出しているかもしれないけれども、町長が言っているのはどうか分かりませんが、そんなものを鵜呑みにして、施設建設を許すわけにはいかないんですよ。だから、しっかりとした確定できるもの。これは近隣町村の関係性、これっていうのは、やっぱりサーモン養殖事業やるにあたっては大前提ですよ。まずはそこが確定されない限りは、この事業は進むべきではない。自分は本当に、サーモンやらなきゃならないと踏ん張ってきたんだけど、だからこそ、ちゃんとした目で見たいし、町としての対応も、しっかりと見ていかなきゃならないと思ってきたんです。ただ今の町の体制では、とてもサーモン養殖事業を前に進めましょうっていうことは言えないです。残念ながら。まだまだ調べることはたくさんあるんでしょうけれども、あまり先走ったことも言えませんが、それでも何とかやらなきゃないと思うから、いろんな意見を出しながらやっていきますが。やっぱり町として、せっかくいろんなハード面でも計画出してくれたけれども、いろんなことを考えたら、こんなものは行政として進める事業じゃ、今のところないなっていう。今、僕はそういう結論に至っていますよ。いろんなここ最近のこの収用も含めたものを考えると。室長どうでしょうか、室長は一生懸命やってきて、せっかくここまでのスキーム作り上げてですよ、行政側の仕事としては、僕は立派にやってきたと思っています。ただ、あまりにも状況が整ってないと思いますが、その点に関してどうでしょうか。この50万粒のサーモン種苗生産施設を作るということに関して、当然一生懸命やってる。今も計画を進めている、水利権も含めてやってるんだろうけれども、不安を感じませんか。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 委員長、サーモン推進室長。

○委員長（赤井睦美君） サーモン推進室長。

○サーモン推進室長（田村敏哉君） 今、関口委員からご意見をいただきましたが、昨年9月末ですか、今後のサーモン事業の在り方、今後の方向性ということでご説明させていただきました。段階からやはり状況もあれをご説明した段階でも、未来を見据えてとは言いましたが、そのとおりになかなかない部分も当然あると。今、お話しがあった周辺町村への供給。今年から徐々に供給は始めますが、八雲町

もそうですし、周辺町村もまだ試験養殖というところもあります。そういったところが、あるいは漁業者がそれを果たして試験が終わったあとに継続していくのかも踏まえて、今後どれくらいの種苗生産が必要なのか。あるいは水利権を含めて、どれくらいの水利権を得られて、それくらい種苗できるのかは検討していかないといけませんし、それから連携している青森県との事業者とももう少し詰めて、規模としては大きなサーモン養殖事業をやっている事業者ではありますので、そこでどれくらいの種苗を生産したあと担ってってもらえるのかっていうのも、しっかりと確認しながら今後進めるのであれば、確認しながら進めていかないといけないっていうのが、私の現段階の認識でございます。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） わかりました。

当初は奥尻の話し、今は今度は洋上風力ですは。どんどんなんとなく目には浮かぶんです。コロコロコロコロ変わってくる、町長元々は、本当は最終目標を決めて突き進んでいくっていう、そういう信頼があったんだけど、そういうものがどんどん軽くなってきてるなという気がするんです。コロコロ変わっちゃうんですもんね。それに振り回される皆さんも大変だなと思うんだけど、しっかりと室長は、いろんな識見をもってやってるんでしょうし、意思を持ってやっているんでしょうし、まだ応援したい気持ちはありますので、なんとかやれる可能性をお互いに探っていきましょうよ。いいものはいい、悪いものは悪いという部分で。だから駄目なことは駄目だとしっかりと言っていないと。せつかく大規模なお金を投資する予定ですから、お互いに意見を言い合いながらやっていけたらいいなと思います。すみません。

○委員長（赤井睦美君） 今日のサーモン特別委員会は、町から上八雲の種苗施設についての説明なので、この辺でもしこのことについて質問がなかったらこれで終わってもいいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） それではありがとうございました。

○議長（千葉 隆君） 岩内に行ったら海面養殖しかやってないんだけど、八雲も先発後進だっってわかってるからきっと。先発後進になってしまった。

【副町長・サーモン推進室職員退室】

○委員長（赤井睦美君） それでは（２）の小委員会の設置、協議について、よろしくお願いいたします。

○議会事務局長（三澤 聡君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 事務局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） それでは、小委員会の設置協議についてご説明いたします。

小委員会の設置協議についての資料をご覧ください。

この度、特別委員会の運営を円滑に進めるために、小委員会の設置についてご協議いただくものでございます。

最初に1の小委員会設置の目的でございます。

本特別委員会は、二海サーモンプロジェクトの今後の計画の調査と、土地収用法の活用の調査のこの二つの調査事項を目的に掲げ、令和5年10月18日に設置しております。

これまでの特別委員会の活動としましては、第2回委員会において、まず最初に土地収用法の活用の調査を進めることとし、資料要求を行いながら、これまで3回の特別委員会を開催してきております。そして、土地収用法の活用の調査につきましては、第4回特別委員会において、特別委員会としての結論を出し、同日、町に対し、委員長等から伝えたところでございます。

それに対する町からの報告は、先ほどの町からのご報告のとおりでございます。

それで今後の特別委員会の活動につきましては、もう一つの調査事項であります、二海サーモンプロジェクトの今後の計画の調査について、このことについて議論に入っていくこととなりますが、委員の皆さんご存じのとおり、この調査事項は、サーモンプロジェクトという大枠の中に、サーモン種苗生産、サーモン海面養殖、サーモン付加価値向上、販路拡大など、多岐にわたっておりますので、小委員会を設置して、まずは事前に小委員会において、調査の進め方や論点整理を検討した上で特別委員会のほうに反映させることで、特別委員会の運営を円滑に進めようという目的でございます。

2の小委員会の業務としましては、資料記載のとおりでございます。

3の委員の選出についてですけれども、(1)の定数につきましては、小委員会を集中的かつ機動的に実施するための人数として、5名が適切かと考えてございますので、ご提案する次第でございます。

次に、(2)選出方法でございますが、方法としましては、立候補あるいは委員長指名の方法があるかと思いますが、どのような方法にするのか、ご協議をいただきたいというふうに思います。

以上、小委員会の設置協議についての説明とさせていただきます。

まずは小委員会を設置するかどうか。それから設置するといった場合に、定数を何人にするか、委員の選出方法をどうするかというところをご協議いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

○委員長（赤井睦美君）　じゃあまず、小委員会設置について、皆さんご意見ありませんか。

○委員（三澤公雄君）　はい。

○委員長（赤井睦美君）　三澤委員。

○委員（三澤公雄君）　作ったほうが円滑な特別委員会運営に役立つと思うんですけども、確認というか要望なんですけど、この小委員会にも、資料要求が直接できる機能があるのかないのか。先ほどの収用のことも、資料請求したからみんなの気持ちの一つになる結果になったと思うんですけど。円滑な運営を目指すのであれば、小

委員会自身にも資料要求ができるようなことのほうがいいと思いますが、その辺どういうふうに整理されますか。

○議会事務局長（三澤 聡君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 事務局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） 資料要求につきましては、町と議会との関係の中で、順序としては、小委員会でそういうような検討した結果を特別委員会に戻して、特別委員会として、そういう結論に達した場合に、議長から町に資料要求するということの順番になりますので、その辺、タイムラグは発生することになるかというふうに、事務局では考えておりました。

その辺に関しては、俊敏な動きというはできないというふうに思いますので、それを委員会の開催を細かく開催していくかどうかというところを考えていく必要があるのかなというふうに思っております。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） この小委員会を作る目的はさ、全員で集まる日程調整はなかなか難しいから、限られた人数で、具体的な議論の進め方を検討しようっていう機能を持たせるんでしょ。そしたら資料要求を欲しいねって、小委員会で決めても、全員協議会を開かれないと、資料要求できないと言ったらさ、本当に目的が半分しかできないことになるんじゃないかと思うんだけど。

○議会事務局長（三澤 聡君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 事務局長。

○議会事務局長（三澤 聡君） お気持ちはお察ししますが、やはり手続き上は、町と議会との役割、関係というところで、特別委員会での結論というところでもっていかなければならないと思います。小委員会のもう一つの目的としては、特別委員会、全員の中で協議を進めるというところもあります。これから範囲が広がる事業全体の計画、このことで議論を進める中で、いろんな意見が出てくると思います。それを整理しながら持っていくというの、ちょっと混乱性があるのかなというふうにも考えますので、まずは小委員会での議論の論点の整理というところがあれば、スムーズに行くのかなと思います。資料要求については、ちょっと小委員会から直接というところは、難しいかなと思いますが、仮に事前に特別委員会の皆さんの委任というか、了解を得た中での進め方、小委員会で決定したことは特別委員会に同意するという委任を受けた中での進め方であれば、今ちょっとその方法であればいいかなというふうには思っていたところですが、原則は特別委員会の全体協議を経た中でのということになるかと考えております。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） 今の局長の後半のアイデア、とってもいいと思います。小委員会の中に正副委員長が入られて、論点整理をした上で必要な資料請求もあわせて小委員会のほうで行えば、次に全員の特別委員会をやったときにスムーズに会議が運営されるので、局長のアイデアいいと思います。

○委員長（赤井睦美君） あと例えば、会派代表者に入ってもらって、その会派でこうなりましたよって広げて意見を収集して、それを小委員会に持ってくるというのは駄目ですか。あとズームとかLINEとかいろいろ活用して、いちいち皆が集まらなくてもいい方法で、何とか全員の意見を集約するのは難しいんでしょうか。

○議会事務局長（三澤 聡君） 会派からの意見を小委員会の場で集約してくるということになると、ほとんど特別委員会委員さん全員の意見が集約されてくると考えますので、今、委員会として委任というかたちが承諾得られたら、よろしいかと思えます。

○委員長（赤井睦美君） それではまず小委員会を作るということで、反対の方はいらっしゃいませんか。

では、作るということによろしいですか。

はい、決定です。

その小委員会のメンバー、選出方法、定数5名ということによろしいですか。

○委員（能登谷正人君） これは委員長、副委員長も含めて。

○委員長（赤井睦美君） はい、そうです。

○委員（能登谷正人君） 足りないんじゃない。7名は。

○委員長（赤井睦美君） 7人という意見がありますけれども。

立候補でやりますって方はいませんか。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） じゃあ委員長が選出するというところでいいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） じゃあまず、先ほど私、会派代表ということで話しをしたので、三澤さんと大久保さんと、副議長と私たち二人とオブザーバーで議長が入っていただけたらいいと思いますがよろしいですか。その他にやりたい方はいませんか。

それじゃあ、三澤さん、大久保さん、黒島さん、佐藤さん、私の5人で、よろしくお願いいたします。

それで会派代表者も入りましたし、もし皆さんから、その方たちに委任しますよってことがあれば、資料請求もできるという方法によろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

では、そのように進めたいと思います。

◎ その他

○委員長（赤井睦美君） その他ありますか。

無ければ、これで終わります。ありがとうございます。

〔散会 午前11時11分〕